

結成20周年
新たな大躍進
に向け出発!

月刊 動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合

〒260-0017 千葉市中央区要町2番8号 (動力車会館)
電話 (鉄電) 千葉 2935・2939 番
(公) 043 (222) 7207 番

99.12.3. No.5056

新小岩支部新執行体制確立

第23回定期大会開催!

新小岩支部は、十一月二十七日、新小岩において第二十三回定期大会を開催した。

大会は、斎藤執行委員の開会挨拶で始まり、議長に前田君を選出して議事が進められた。

冒頭、君塚支部長からは「この一年間は『新フレイト21・6千人』体制との闘いにあけくれた。今後は貨物ルートが総武線から京葉・武蔵野への移行により、新小岩派出基地の存続が問われる一年となる。活発な論議で大会を成功させ、更なる闘いへ決起しよう」と挨拶を行なった。

来賓として東部労組交流センターの佐藤氏、国鉄闘争支援葛飾地区連絡協議会佐保議長より挨拶を受け、本部からは田中書記長が代表して「来年の国会ではJR会社法の見直しがある。完全民営化は破綻している。その最大の矛盾が貨物であり、我々としてJR総連との対決が必要である」と挨拶を行なった。続いて執行部より一般経過報告、決算、九九年度方針案・予算案が提起され質疑応答に入った。

【出された主な意見】

- * 京葉ルートの線見はどうなっているのか
- * 整備新幹線について貨物ルートは、経費増になり経営はどうするのか
- * 防護要員の見直しは
- * ダイ改で食事時間が取れなくなった
- * 大宮操の旅客駅は使用できるのか

* 新小岩の基地問題について
* 組織内の物販貫徹について
* 等多くの質疑が出されました。

本部・支部から答弁を受けた後、方針の採択が行なわれた。今大会以降、君塚支部長は本部副委員長になるのに伴い、新たに服部支部長を選出し、新支部長の団結ファンパロウ三唱で大会は成功裡に終了した。

一九九九年新執行体制

支部長	服部 和夫	運輸士
副支部長	国分 重晴	運輸士
書記長	笠井 清	運輸士
執行委員	齊藤 隆男	運輸士
	並木 敬治	運輸士
	佐藤 正和	運輸士
会計監査	玉沢 米治	運輸士
	堀 幸男	運輸士



動労総連合定期全国大会

に結集しよう

十二月五日十四時から
船員宿泊所なのはな荘

動労総連合は、十二月五、六

日に第十四回定期全国大会を千葉

市において開催します。自公翼賛体制やガイドライン体制という戦争と大失業の攻撃がますます激しくなる状況のなかで、国鉄闘争勝利、反合・運転保安確立、動労大改革・JR結託体制打倒にむけた闘いの強化が、今ほど求められている情勢はありません。本定期全国大会の成功にむけて全支部から傍聴にかけつけよう。

本定期大会の課題の第一は、自公翼賛体制のなか戦争と大失業攻撃と闘う労働運動の本格的発展をかちとることです。十・七全国労働者集会の三千五十名の結集と多くの労働組合の組織参加による成功や、反動石原都政による一方的なリストラと賃金切り下げ攻撃に対する都労連のストライキの爆発にみられるように、労働者の総決起が始まっています。いまこそ戦争と大失業に抗する労働運動、全国ネットワークを構築しなければなりません。

第二に反合・運転保安闘争の強化を勝ち取らなければなりません。JR体制はもはや列車の運行能力の喪失状態といっても過言ではありません。輸送の安全より増収や労務政策優先のツケが、回復不能なほどJRを蝕んでいきます。さらに相次ぐトンネルのコンクリート剥落は、ついに列車の脱線事故まで引き起こしています。「闘わなければ殺される」これが掛け値なしに問われています。

第三にJR結託体制打倒、動労大改革の闘いにはいまこそ総決起するときです。JR結託体制の要をなすJR東労組は、革マル分子の組織的引き回しに嫌気がさした組合員の離反にたいして「組織破壊分子」として機関紙上で実名をあげ追及行動を行うという末期状態を呈しています。いまこそ本定期全国大会を期して、組織拡大に総決起していかねばなりません。

動労総連合の飛躍、発展をかけて定期大会に結集しよう。

大失業と戦争の時代に通用する新しい世代の動労千葉を創りあげよう!